

## 狭山の元気 発見

# 躍

いきいき狭山人  
ひと

## アジアの棚田・人々の営みを伝えて 自然と人間が生んだ造形美に感動

日本人の根つこにもなっているアジアの米文化・稲作。特に階段状の水田「棚田」に魅せられて、その写真を撮り続けている写真家があります。富士見在住の青柳健二さんです。

青柳さんが最初に写真に興味を持ったのは、大学4年のときのヨーロッパ旅行中。パリでアルバイトをしながら滞在していた時、立ち寄った書店で、フランス語が読めなくても見られるからと、とある写真集を見たときでした。写真は言葉が分らなくても世界中に訴えかけられることができる「と思い、さらにその著者が日本人だと知って驚いたのだそうです。「私は旅が好きで、旅のおもしろさ、そこで感動した光景をどうやって伝えるのかを考えたとき、ビジュアルに捉えたい。そして、他の人にも見てもらいたい」といつ気持ちでこれまでやってきました。自分の感動がなければ、いい写

真は撮れません。旅先でいかに感動するかが大切で、私の写真は、旅の良さを見せる一つの手段です」と言い切る青柳さん。

そんな青柳さんが、棚田に興味を惹かれたのは、10年程前に中国雲南省に出かけ、民宿に泊まったときのこと。目覚めて窓を開けると朝日を受けた棚田が目に入り、その緑に輝く景色に圧倒されてしまったそうです。山形県出身で、子どものころは、いたるところで目にしてきた棚田を少しも美しいとは思わなかったのに、そのあぜ道は美しい曲線を描いていました。しかし、美しく作ろうと意識したのではなく、そこに暮らす農民が自然に従い、また、闘ってきたことなどが、結果として生み出した造形なのです。そこから棚田の美しさを追い求め、中国、フィリピン、ベトナムなど、そして日本全国の棚田の写真を撮り続けています。これからも棚田を含め、人が生きている環境を撮り続け

たいという青柳さんは、武蔵野の雑木林も人が作った自然・文化ですし、棚田と共通するものがあります。ライトアップした雑木林の中で、写真展をやってみたいですね」と狭山の環境にも興味を示していました。

世界を旅し、さまざまな文化や自然を見つめる青柳さんは、さやま環境市民ネットワークのみどり保全・再生分科会に参加して、狭山の環境づくりにも積極的に関わっています。写真家としての経験を生かした、今後の活動に期待がふくらみます。



中国雲南省の民宿の窓から見た棚田  
(写真集・アジアの棚田 日本の棚田から)

青柳健二さん  
(写真家)



旅の楽しさは、異文化・人との出会い  
旅で感動したことをみんなに伝えたい  
その気持ちが写真を続けてきた原動力

# オピニオン

皆さんの「声」をお寄せください。

活力あるまちづくりの推進に  
適正な表彰制度が必要では



市内には、青少年の健全育成をはじめ、福祉の向上、環境美化の推進など、ボランティア活動を通して、長年地域社会に貢献している方がたくさんいると思います。行政をつかさどる市長をはじめ、職員関係者は市民が明るく豊かに暮らしていけるよう日夜努力していると思いますが、行政が行き届かない部分が必要あり、地域社会で実践している人々に支えられていることも事実だと思えます。

しかし、無報酬で、自分の時間を割いて、地域社会のために長い時間活動が続けて行くことは、並大抵のことではなく、こつした人々を見ると頭の下がる思いです。

このような人たちへの表彰は、現在どうなっていますか。もし表彰制度がなければ、ぜひ検討くださるようお願いいたします。ボランティアに対する表彰制度は、長年のご苦労に対する感謝の気持を表す意味ばかりでなく、活力あ

るまちづくりの推進につながるっていくものと信じます。また、ボランティア活動に対する県などの表彰に関する推薦の現状をお知らせください。

榎本国利さん(狭山台在住)

## 市からの回答

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。活力あるまちづくりには、市民皆さんの協力が不可欠であり、ボランティアの皆さんの力は市の宝だと考えています。

ボランティアに限定した表彰制度はありませんが、市や関係団体には、さまざまな表彰制度があります。市の振興発展に功労のあった団体・個人を5年に一度、市民の皆さんから推薦していただく、「市民賞」をはじめとして、青少年健全育成に努めている方に「青少年を育てる狭山市民会議表彰」があります。そのほか、日常、身近なところで住みよい地域社会の実現に向けた地道な活動を続けている方に、狭山市コミュニティ推進協議会の「茶の木賞」があります。また、県の表彰では「シラコバト賞」への推薦も行っています。

担当 秘書課・自治振興課

## A ssistant L language T eacher

好きな言葉 ワクワク

まるでその意味そのものように聞こえるから



Brett Cannon  
ブレット キャノン  
(入間野中学校勤務)

オーストラリア出身  
狭山市のALTとして  
勤務して1年  
趣味はコンピューター、  
スポーツ(クリケット)、  
旅行

My name is Brett Cannon and I am the new ALT at Irumano junior high school. This is my fourth year in Japan, so I guess I must like it. Before this my job was a Senior High teacher in Sayama and, before that, a junior high school teacher in Yorii. I love teaching junior high school. The students are so open minded and friendly.

I originally come from a small country town called Mount Gambier in South Australia. I was working as a journalist there. However, my father, mother and sister are all teachers and in the end I couldn't escape it!

I look forward to another year in Sayama. If you see me on the streets, feel free to say "hello".

私の名前はブレットキャノンといます。入間野中学校で新しく、A.L.T.として勤めることになりました。今年で日本に来て4年にもなるので、こんなにも日本が好きになったのだと思います。中学校に勤める前は狭山の県立高校で、さらにその前は寄居町の中学校に勤めていました。生徒たちは友好的で、とてもよく私を受け入れてくれました。

私は、南オーストラリアのマウントガンビアーと呼ばれる小さな町の出身です。もともとそこでジャーナリストをやっていました。しかし、私の父、母、姉妹がみんな教師なので結局私も教師になっていました。(教師という職から逃れられなかったのかな)

私は狭山でのこれからの一年を楽しみにしています。もし街で私を見かけたら、気楽に"ハロー"と声をかけてください。  
(英文の要約)